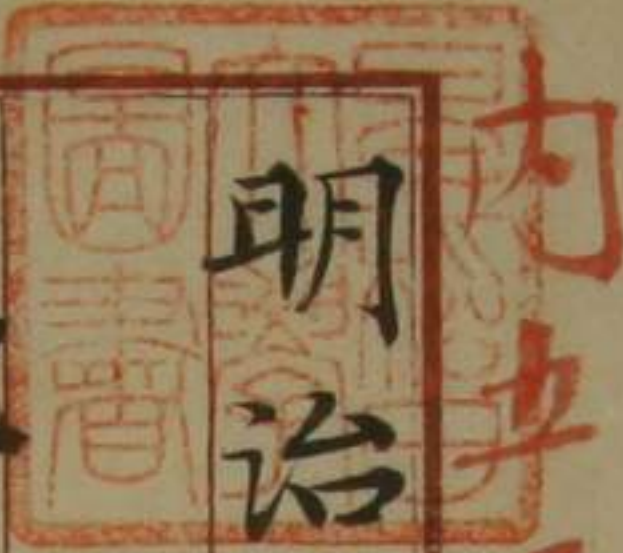


114
A 2027



内申百八十三号

明治十一年六月廿二日

書記官

大正十一年四月
限候爵邸



地租改正事務局
上申山口縣地租
改正再査之儀

大臣

参議



657



明治十一年六月廿一日

法制局

別帝地租改正事 啓局上申 山口縣地利改
 三再查ノ義審案ハ處上申之旨主ニ依ル該
 縣ノ改租ハ實地丈量等ノ方法精密サラズ未
 各地ノ改租ニ比較スルハ大ニ疎漏アルヲ以テ再々之ヲ
 精査シ各地ト大異同ナカラシメントスルナリ然レ其
 改正ノ舉タルヤ當時已ニ布ク所ノ法令ニ準據シ
 地方官地租改正局官負ノ協議查定之シタルヲ
 以テ今更ニ之ヲ疎漏ナリト云ベカラス且其各地ノ比
 較ノ如キハ人民ノ得テ知ルベキニアラズ況ヤ當ノ初
 民費ヲ消スルヲ三十萬圓今復之ヲ再セントス

人氏豈承服スヘクヤ

又地租改訂條例地方官心得追加第八章程地

租五ヶ年一据置ノ文アルヲ以テ強テ之ヲ率引

シテ五ヶ年目ニハ必ス改訂スヘキ者トシ之ヲ施行シ

トス是亦甚不可ナリ如何トナレハ此文タルヤ必ス

五ヶ年毎ニ改訂スヘイトノ意ニアラサルヤ明ケシ既ニ改

訂局上申シモ陳述スル如ク他府縣ハ追テ何分ノ

御處置アリベクナレバ先ツ山口縣ニ限り五ヶ年ニ滿

チタルヲ以テ再改訂スベシト斯ノ如ク地租改訂局トイ

ヘ凡他府縣ノ義ハ未タツルニ至ラズ五ヶ年毎ニ改訂スベシ

トノ決議ニ至ラザルナリ抑地租改訂ノ事タルヤ全

國人心之ヲ為メ動搖スルモノサカラズ今漸ク緒

就キ民心ヲ稍安堵ニ至ラントスルノ際豈之ヲ再

促スヘクヤセシムルノ内外御事ニ端一析柄免角民心

鎮定ノ御施政可及為在義ト奉存ニ付該

上申地租再改訂ノ義ハ先ツ御差留方

存存仍テ御指令案相伺也

御指令案

伺ニ越テ詮議ニ次第有之難聞也

御事

奏摺

地租改正案例追加

勢ハ章地租改正後壹貫ノ間地原ノ増減
生シテ改正ノ年ヨリ五ノ年ノ間ハ最初ノ定メ
ル地原ヨリ双稅ノ條事

但地原昂漲シ生シテ其若我表百ノ其地
地方有テ於テ未書ニテ記シ出可申事

地租改正事務局

カラサル原因アルモノニ限り再調お成ル後
年限之儀を更ニ申ケル百定税所入
之義務盡実お成候様致シ度見込
有之候に就テ追而右縣整頓
期之至リ利害得失具陳致シ
得之有之候此段及後回答候也
明治十一年六月四日

地租改正事務局



法制局
後中

法制局第五十二號
五月十三日
法制局
付印



山口縣管内地價再調査ニシム一キ

儀伺

地租改正之儀全國既ニ整頓スルモノ十七八
ニ及一リ若其結局ノ日ニ至レバ将来ノ得
失利害等更ニ具陳スル所アラントス然ル
ニ山口縣ノ儀ハ明治六年ノ改租ニシテ改
正条例第八章改租ノ年ヨリ五ヶ年
景初査定セシ地價ニ據リ收税スヘシトノ
年限モ既ニ經過セルヲ以テ更ニ何分ノ御達無
ルヘカラス依テ熟考スルニ将来各地方處分
如何ニ関セズ該縣ノ如キハ特ニ再調
査セサルヘカラス蓋該縣當初調査ノ方法タル
第三五七号

法制

批文

調査

明治五年地券發行ノ令出ルヤ直チニ
税額ヲモ改正セントシ該縣限リ適宜ノ
方法ヲ設テ調査了リ當時縣令中野格
一出京レ切ニ改租ノ許可ヲ要求ス時
適六年二百七十二號地租改正規則頒
布セララル、ヲ以テ其條例ニ照シ該縣調
成スル所ノ帳簿ヲ勘査セシムルニ全管
統計上地價算出等ハ粗筭則ニ合ス
ルヲ以局員ヲシテ實地審査トシテ旅
出セシメシニ法則施設ノ當初ナルヲ以テ
調査法モ未タ全ク備ラズ加ルニ以隣ノ
權衡照鑑スヘキナク其細目ニ至テハ
該縣於テ槩定レ業己ニ民議ヲ徃タ

ル後ナルヲ以檢地丈量ノ如キモ大ニ
民心ニ関スル所アルヲ顧慮シ勤メテ
簡易ニ從フヲ旨トセラ以當時ニ在テ
ハ之レヲ認可セシム爾來各地整理ノ間
議論愈精密ニ涉リ方法作用隨テ改
良セルノ今日ヨリ該縣ノ成跡ヲ回顧
スレバ改租ノ基本トスヘキ土地ノ丈量
精密ナラズ又地價算出ノ具タル收穫
米價利子ノ如キ大率他ノ地方ト以
準ヲ得ス今ニ於テ之レヲ整頓スルニ
アラサレバ該縣而已一箇特種ノ痕跡
ヲ存シ長ク弊害ヲ遺スニ至ラン依テ
六年第百七十二號ノ條例ニ據リ再

地租改正事務局

調修正ス一キ旨御達相成度御達按
相副此段相伺候也
明治十一年五月十日

地租改正事務局總裁

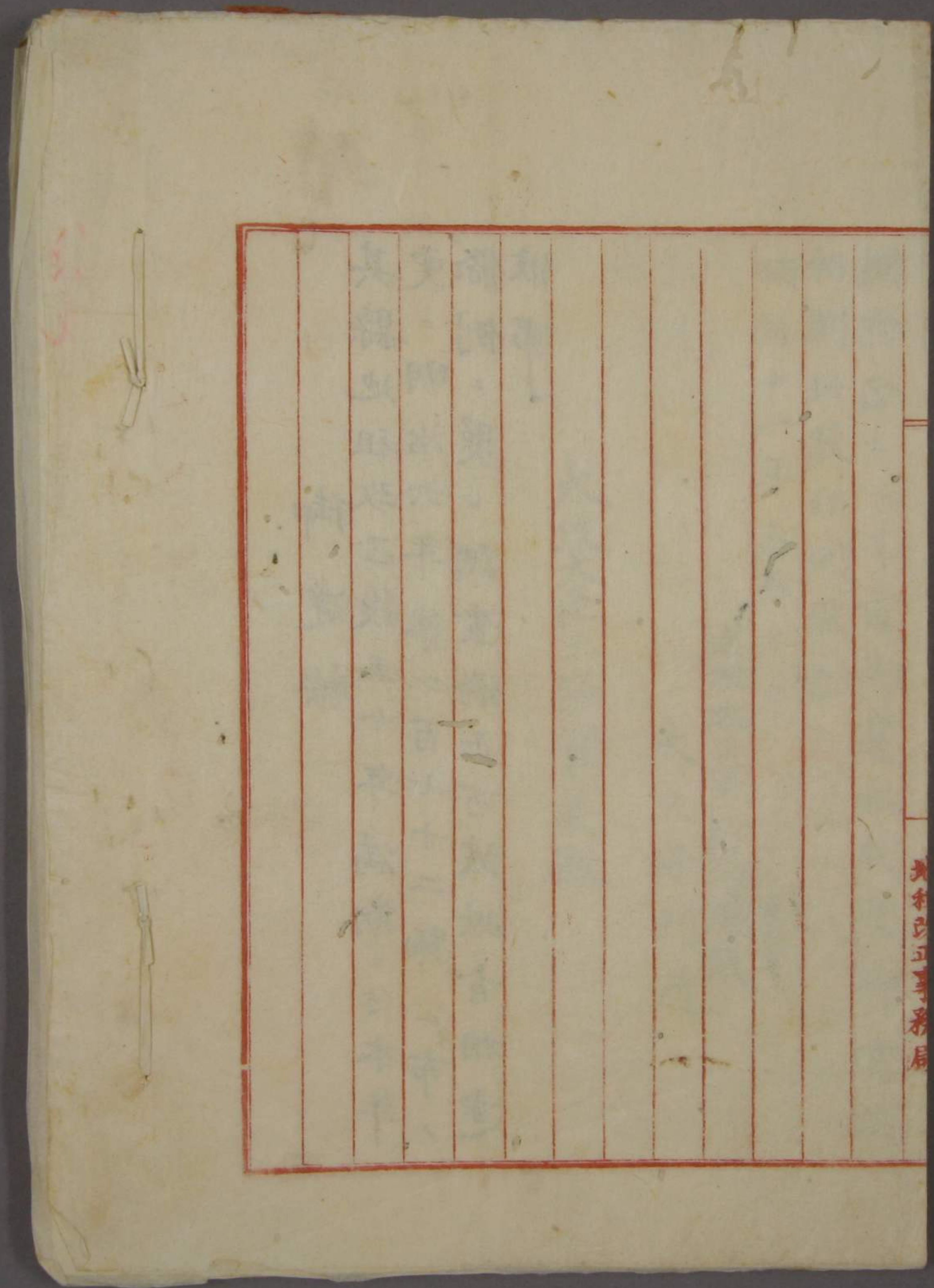
大久保利通

太政大臣三條實美殿

御達按

其縣地租改正後五個年滿期ニ付本年
更ニ明治六年第二百七十二號公布ノ
條例ニ照シ調査修正可致此旨相達
候事

包且文三三三三



光緒二十五年